

NHO～こんな取り組みやっています～
No.03

子どもたちの笑顔が院内を笑顔にする
プランター花壇
にじいろガーデン

三重病院



「花には人を笑顔にする力がある」、身をもってその力を体感している子どもたちがいます。そして、三重病院のプランター花壇“にじいろガーデン”は、今日も人々を笑顔にしています。

“にじいろガーデン”は4年前、子どもたちと保育士・児童指導員が療養生活について話し合う子ども全体会議で子どもたちから挙げた「外で体を動かしたい」「自然に触れたい」「憩いの場として花壇やベンチがあるといいな」などの、戸外活動や憩いの面の充実に向けた新たな取り組みを子どもたちの手で作りたいという考えを、当時の院長先生に手紙にして送ったのがきっかけです。



その子どもたちと病院職員がタッグを組み、園芸活動は生まれました。やがて花はトマト・ナス・オクラといった野菜

にも広がり、収穫後は栄養管理室の協力により給食に使われるなど、その活動は食育へも広がっています。

小児病棟には親元を離れ、食物アレルギー、1型・2型糖尿病、肥満症、心身症などの病気と闘っている子どもたちが入院しており、中には自分に自信が持てない子もいます。

ところが、毎日当番制で花や野菜に水や肥料をやり続ける中で、例えば悪天候にも負けずに実をつけたナスは病気と向き合う自分の姿と重



なり励みになったそうです。美しい花を咲かせ実をつけてもらうためには忍耐・責任・仲間との協力も必要で、人との関わりが苦手な子も協調性が芽生え、活き活きと積極的になっていきました。また、植物に愛情を注ぐことで、自分たちも家族や病院職員に愛されて成長していることに気付くのです。



小児病棟は入院・退院の動きの中で子どもたちの顔ぶれも変わっていきませんが、代々先輩からのバトンがしっかりと受け継がれています。プランターの中の小さな命は、まるで子どもたちの愛情に報いるように、大切なことを彼らに教えてくれているのです。



■三重病院（三重県津市）



許可病床数260床の子どもから高齢者までを支える総合成育医療機関。24時間体制で小児救急に対応しており、隣接して三重県立子ども心身発達医療センターが設置されている。